

# 創立 50 周年を迎えて

一般社団法人 日本品質管理学会

会長 二橋 岩雄

一般社団法人日本品質管理学会は2020年10月1日から第50期に入り、創立50周年を迎えました。これもひとえに会員の皆様をはじめ、多くの方々のご支援ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

当学会は、設立以来、人と組織、社会へ貢献すべく、製品・サービスの質、仕事の質、生活の質などあらゆる Quality（質）向上に役立つ技術・手法を研究・開発し、普及してきました。

この間、高度成長時代は終焉し、産業構造も一変する中、日本の産業は様々な課題に直面してまいりました。グローバル競争の激化、東日本大震災をはじめとした度重なる災害、さらには新型コロナウイルスによる疫病の禍等、まさしく VUCA の時代を生き抜いてきた感があります。

品質管理学会が50周年という節目を越えて、新たな日本の産業の発展に貢献する活動成果を出し続けられるか？まさに正念場を迎えています。

本誌は、当学会の創立50周年記念事業の一環として主に40周年以降の10年間に焦点を当てて活動を記したものです。

この10年間の新たな活動の中でも特筆しておきたい取り組みが2点あります。

1点目は、「品質立国日本再生」に向けた様々な取り組みを行ってきたことです。その活動の核は一貫してQ（質）による3つの貢献、すなわち「Qの確保」、「Qの展開」、「Qの創造」に沿って進められてきました。研究活動の継続、発表会イベント・行事の開催、『品質』誌の発行等、愚直に取り組みながら、JSQC規格の整備、英文電子ジャーナル『TQS』の発行等に取り組み、活動分野も医療・福祉、サービス、教育等の領域にまで広がってまいりました。

2点目は、産・官・学の横串機能であるJAQ創設に向けて検討を開始し、準備を進めてきたことです。「クオリティの進化により社会の発展に貢献する」という価値観を共有し、一組織ではできないことを連携・推進する仕組みとして機能することを期待しております。



日本品質管理学会、  
日本科学技術連盟、  
日本規格協会、  
日本能率協会、  
品質工学会

図・1 JAQ ロゴマークと参加組織

こうした成果を踏まえつつ、これから目を転じますと、課題は山積しています。本学会をより多くの会員が集う魅力ある学会にしていくとともに、安心して豊かな社会実現には欠かせない「品質管理」、「問題解決」をさらに広く普及・促進していく必要があります。さらには社会のニーズの多様化・高度化やデジタル化の進展に対応すべく、日本品質を支える社会インフラとソフトの強靱化や、「新たな価値創造」への貢献にも取り組まなくてはなりません。

本記念誌を手にとって頂いた皆様が、先人の努力を学び、自らの品質活動を虚心坦懐に振り返るきっかけとして頂くとともに、Quality（質）の更なる向上・発展にご活用いただけましたら幸いです。

最後に、ご投稿頂いた歴代会長・名誉会長をはじめ、編集にご尽力頂いた渡辺喜道さんを責任者とするJSQC50周年記念事業実行委員会記念誌担当委員各位にお礼を申し上げます。